

2015年度 自己点検・評価【教育学研究科】

C票

<目標、行動計画>策定シート

作成日:2015年11月6日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】						
(タイトル) 再編後の教育学研究科の教育・研究内容の周知						
(狙い内容) 2017年度に再編する教育学研究科の教育・研究内容の周知につとめる。						
1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標) 再編後の教育学研究科の教育・研究内容の周知につとめ、前期課程および後期課程入学者数(定員充足率)を増やす。						
2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。 本研究科では、2017年度に教育学研究科教育学専攻の構成を、現在の3コースから「乳幼児教育研究領域」と「共生教育研究領域」の2領域へと再編することになった(2015年11月研究科再編に関する第一次答申)。本研究科の人材育成は研究者養成を主たる目的としているが、社会の要請に応えるため保育者・教員養成の専門性を強化する教育内容や支援をねらいとする人材育成も目的のひとつとしている。そこで先述の各領域には「研究者養成コース」に加えて、保育・教育の指導者や実践者を育成する「高度教育コース」を設置する。						
3. 達成度評価						
評価指標	前期課程および後期課程入学者数(定員充足率)				評価尺度	A:70%以上 B:60% C:50% D:50%未満
4. 年度毎の目標値						
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2120年度	2021年度
83%	答申に基づく入試の実施(9月, 2月)	90%	95%	100%	100%	100%

【A票:教育研究目標2】						
(タイトル) 研究者養成コースの教育研究目標						
(狙い内容) 前期課程「研究者養成コース」では現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し論理的に表現できる教育学・保育学研究者の養成を目的としたコースワークをワークを行い、後期課程への進学につなげる。						
1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標) 大学院生が国内外に研究内容を発信し、研究者として自立できるよう基礎を身につけられる教育研究環境を整える。						
2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。 現状では、前期課程の定員を満たしているものの、コースによって偏りがある。特に初等教育コースの在籍者が少なく、後期課程については、定員充足率が低い。本研究科では、2017年度に教育学研究科教育学専攻の構成を、現在の3コースから「乳幼児教育研究領域」と「共生教育研究領域」の2領域へと再編し、各領域には「研究者養成コース」に加えて、保育・教育の指導者や実践者を育成する「高度教育コース」を設置する(2015年11月研究科再編に関する第一次答申)。現在まで、前期課程から後期課程に進学した者は1名であり、研究者を目指す学生に有益な教育研究環境の充実がよりいっそう求められている。						
3. 達成度評価						
評価指標	①研究者支援コースへの入学者(あるいは定員充足率) ②学内外の研究支援制度に応募する学生数 ③前期課程から後期課程への進学者				評価尺度	A:70%以上 B:60% C:50% D:50%未満
4. 年度毎の目標値						
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2120年度	2021年度
②0回/1名 ③なし	答申に基づく入試の実施(9月, 2月)	新カリキュラムの実施(初年度) ①1名以上 ②1回以上/1名	①1名以上 ②1回以上/1名	①定員の1/2 ②1回以上/1名 ③1名以上	①定員の1/2 ②1回以上/1名 ③1名以上	①定員の1/2 ②1回以上/1名 ③1名以上

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成

(狙い内容)

前期課程「高度教育コース」では、奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成を目的としたコースワークを行う。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

- ① 大学院生が教育研究の調査・実践対象に困ることない教育研究環境を整える。
- ② 社会の要請に応えられる人材を輩出し、就職ができるように研究科が組織的な支援を行い、教育・保育機関への就職を促す教育研究環境を整える。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

本研究科では、2017年度に教育学研究科教育学専攻の構成を、現在の3コースから「乳幼児教育研究領域」と「共生教育研究領域」の2領域へと再編する。本研究科の人材育成は研究者養成を主たる目的としているが、社会の要請に応えるため保育者・教員養成の専門性を強化する教育内容や支援をねらいとする人材育成も目的のひとつとしている。そこで先述の各領域には「研究者養成コース」に加えて、保育・教育の指導者や実践者を育成する「高度教育コース」を設置する。「高度教育コース」のカリキュラムの特徴としては、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の専修免許状が取得しやすい修了要件を設け、フィールドワーク科目を必修科目としている。本研究科は附属の保育・教育機関を持たないため、フィールドワークにおける教育・研究への協力は個人的な知己に頼っている現状がある。

3. 達成度評価

評価指標	①高度教育コースの入学者数(あるいは定員充足率)	評価尺度	A: 70%以上
	②本研究科の教育・研究に対する保育・教育現場の協力機関数		B: 60%
			C: 50%
			D: 50%未満

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2120年度	2021年度
②組織的な支援なし	答申に基づく入試の実施(9月, 2月)	新カリキュラムの実施(初年度) ①1名以上 ②1箇所以上	①1名以上 ②1箇所以上	①定員の1/2 ②2箇所以上	①定員の1/2 ②3箇所以上	①定員の1/2 ②4箇所以上